

「東京防災」・「東京くらし防災」編集・検討委員会

(第4回)

議 事 録

令和5年7月5日(水)

第一本庁舎9階 会議室

午前 10 時開会

○中林委員長 それでは、全員そろいましたので、第 4 回『東京防災』・『東京くらし防災』編集・検討委員会」を始めたいと思います。

進行については、第 1 回に引き続き、中林のほうで進めさせていただきたいと思います。これから、委員会を進めるに当たっての注意事項を説明します。この会議は非公開で実施いたしますので、どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。

また、委員会は、防災ブックのリニューアルに関して助言を行うものであります。頂いたご意見のすべてを反映するには様々な制約もありますので、ご了承ください。

それでは、次第にしたがって、本日の議題である、「防災ブックの原稿案」についてのディスカッションに移りたいと思いますが、それに先立って事務局より資料、論点等の説明をお願いしたいと思います。

○事務局 事務局より原稿作成に当たってのポイントをご説明させていただいた後に、既にお示しをしています原稿案につきまして、事前に議員の皆様からいただいたご意見についてご説明いたします。資料 1 をお開きください。

資料 1 の 1 ページ目ですが、こちらの全体構成です。既に事前にご説明させていただいていますので、ポイントのみの説明とさせていただきます。ご案内のとおり、「東京くらし防災」については、「日常の暮らしの中で、防災行動のベースを作っていく」、「気軽に手に取っていただく」ということをコンセプトとしており、「東京防災」につきましては、「知識を深めていき、地域や学校、職場などのコミュニティで活用していく」というコンセプトのもとに構成をしています。

章立てにつきましては、記載のとおりです。「東京くらし防災」につきましては、第 1 章から時系列で記載をしています。「東京防災」につきましては、災害種別ごとに記載しており、「東京くらし防災」の記載を更に掘り下げていくような内容になっています。

次のページですが、原稿校正の方向性です。全体としましては、2 冊の内容を棲み分けていくということです。「東京くらし防災」については文字量を抑え、詳細の内容については「東京防災」に記載していくということです。既にお配りしている原稿は 1 校ということで、棲み分けができていないところですか、文字量が抑えられないところが多々ございますので、こちらを事業者に修正依頼を行っており、全体の考えに合うようにしていきたいと思っています。

ポイントの 1 つ目ですが、これまでの委員会でもご意見がありましたが、情報へのアクセスということで、様々な人がニーズに応じて読むべきページにたどり着くための工夫ということで、特に「東京くらし防災」の冒頭部分で、どこから読めばいいのかというのを誘導しているところです。ポイントの 2 つ目としましては、災害を自分ごとと捉えて読み進めてもらう工夫ということです。

冒頭部分のインパクトですとか、防災を自分ごととするための防災チェックリストのようなものを、巻末に記載をしているというところです。ポイントの 3 点目は、社会情勢を踏

まえた記載の充実です。下のキーワードにあるとおり、これまでの委員会でも、委員の皆さまより、トイレ対策の重要性や、実際に防災グッズを使ってみることが重要である点、キーワードとしてガラス対策や、地震火災、そのほか、事例や被災者の声も記載すべきだといったお話もいただきましたので、1校の段階ですが、基本的に盛り込んでいるようにしているところです。

次のページです。3ページ目が「東京くらし防災」の原稿案について、4ページ目が「東京防災」の原稿案について、5ページ目がその他のご意見です。事前に原稿をお送りさせて頂き、非常に短い期間でご確認ご意見頂きましてありがとうございます。本日のディスカッションを効率的に進めると言う観点から、事前に、いただいたご意見についてまとめさせていただいています。ご意見が間に合わなかった委員につきましては、本日ご意見いただければと思っています。この資料につきましては、本日初めてご説明いたしますので、上から順に丁寧に説明させていただければと思います。なお、太字の部分につきましては、事務局として特に本日ご検討いただければありがたいという風に考えているところです。

左側が該当ページ、真ん中が主な意見対応方針です。お配りしている原稿を見ながらと言うことで進めさせていただければと思います。まず「東京くらし防災」の冊子をご覧頂きます。序章のところ、特に3ページから7ページまでの最初のメッセージです。まだイラストは入っておりませんが、このイメージがやや暗いのではないか、もう少し明るくしてもいいのではないかという意見もいただいています。ここの書きぶりについては、これまでもお話がありましたとおり、リアリティを追求すれば、少しトーンが暗くなることもあるのかなというところもありますので、この書きぶりについて、またご意見いただければと思っています。

続いて、20ページから、第1章全体で備えのページが始まります。第1章全体に対して、防災で大事なこと、在宅避難に関することというご意見があり、必ずやってもらいたい備えなど、優先順位を決めて取り上げてはどうかというご意見です。このご意見に対しては、基本的に、「東京くらし防災」は、必ずやってもらいたいものを取り上げているというところですので、その中でも、これは特に重要というものは、例えばイラストを大きくしたりなど、表現を工夫したりしたいなというふうに思っています。特にこれは重要なので、イラストも含めて大きくしたほうがいいというところも含めてご意見いただければと思っています。

次に、29ページの、防災アイテムのところです。さらしの記載がございますが、「今はもうさらし持っている人が居ないため、時代にそぐわないのではないか」というご意見です。場合によっては削除するなど検討していきたいと思えます。

続いて、36ページ、37ページの、トイレの記載がある所です。トイレの準備をしておこうということで、作り方も含めて記載していますが、商品化された簡易トイレがありますので、それをまず使ってみようという案内があったほうがいいのではないかというご意見があり、こちらはリンクを追加する方向で考えていきたいなと思っています。

続いて、82ページです。こちらは多様な視点での備えというページですが、妊産婦の備

えについて、「女性特有の留意事項について、もう少し具体的に記載を増やしたほうがいいのではないか」というご意見がございましたので、これについてもレイアウトを工夫するなどして、充実させていきたいと思っています。

続いて、84 ページです。こちらは幼児の対策のところですが、下のイラストの「笛を吹けるか試してみよう」というところについて、「このイラストが何を意味するのか」、「なぜ必要で、どういうふうに使われるのか分かりにくい」というご意見がございましたので、これについても表現を追加するなど検討していきたいと思っています。

続いて、107 ページです。ページの下のところ「津波避難タワーに避難しましょう」という記載がございましたが、「まだ津波避難タワーが十分に設置されているとはいえない状況のため、ホテルなど、高い建物に逃げるといことも入れてはどうか」というご意見がございましたので、こちら追加の検討をしていきたいと思っています。

続いて、130 ページです。こちらのページで「要支援者」という言葉を使っておりますが、防災ブックの中では「要配慮者」に統一してはどうかというご意見です。こちらについては、福祉局に確認したところ、ご指摘いただいたとおり、「要配慮」者のほうがいいのではないかと思っていますので、修正の方法で考えていきたいと思っています。

続いて、162 ページ、163 ページです。こちらは、避難所での過ごし方のページですが、特に163 ページの「災害関連死」のところ。「災害関連死」は在宅時のほうが圧倒的に多いため、「体調を崩さないようにする」という項目は、「在宅避難に関するページに記載してはどうか」というご意見がございました。こちらについては、その前の156 ページ、157 ページに、在宅避難のページがあり、今、このページに在宅避難での過ごし方ということで、色々な記載がありますが、ここに体調管理のことも含めて、レイアウト上の工夫をして、追加する方法で考えています。

続いて、その他のご意見です。イラストについては、現時点では仮のものですが、色々なご意見をいただいています。例えば、「机の持ち方は対角線の脚を持つようにするべきところ、今のイラストでは同じ方向になっている」といったご意見など、イラストについても複数ご意見をいただいています。こちらは、今後、イラストデザイン構成の中で対応していきたいと思います。「東京くらし防災」について事前にいただいているご意見は以上です。

本日は、特にこれらの点を含めて、その他のこの資料に出ていない点も含めて議論いただければと思っています。

次のページが「東京防災」の原稿案についてご意見です。

10 ページ 11 ページをご覧ください。こちらのページは、「地震の発生でこのようなことが起こる」ということを、時系列に沿って説明した図です。このページは非常に重要であり、状況説明をするだけでなく、わが事としてイメージが持てるように、イラストを多用するなど、ページ数を増やしてはどうかというご提案です。こちらのご提案の採用方針ですが、イラストを入れてページ数を増やすことについては、全体のページ数が定まっているので、「このページは削減できるのではないかと」というページとあわせてご検討をいただければ

と思っています。

続いて、第1章全体についてです。こちらは地震の備えについてページですが、備蓄について、「行政機関が何をどのくらい備蓄しているのかを踏まえ、個人が何をどのくらい備蓄すればいいかが分かるようにしてはどうか」というご意見です。こちらについては、34ページから39ページの中で、個人の備蓄について、最低3日間という記載や、食品についての記載や、36ページ、37ページは実際の目安量をお示ししています。都の備蓄や区市町村の備蓄など行政機関の備蓄については、どこまで記載ができるのかというところも含めて、確認、検討していきたいと思っています。

続いて、126ページです。

126ページは避難所の説明のページです。「避難所は自宅に住めなくなった方が応急的に避難する場所です」というような形で説明をして、「避難所はあくまで応急的に生活する場所で、在宅避難が基本だ」ということなど、「在宅避難に誘導する記載を追加してはどうか」というご意見です。こちらについては、2校以降で表現を追加していきたいと考えています。

続いて、第3章、150ページからです。原稿案では、第3章が台風豪雨災害になっていますが、この中で「具体的にどのように備えて行動すればいいかよりわかりやすく」なるよう、例えば「重要な項目を大きくするなど、わかりやすくしてはどうか」というご意見です。こちらについては、原稿案では必要最低限のことを盛り込んでおりますが、特にここは重要で目立つようにしたほうがいいのか、イラストを大きくしたほうがいいのかというところも含めて補足的にご意見をいただいて、反映できればと思っています。

続きまして、第5章、150ページから190ページです。第5章については、多様な人びとの防災対策を理解しようということで、多様な人びとの記載がございますが、多様な人々の命、尊厳、暮らしが守られる「地域共生社会」の理念が必要であり、「支援者」が「要支援者」を守ることが強調されると、「支援者」と「要支援者」が分断される、というご意見です。こちらについては表現を工夫して、そういった疑念が持たれないような表現にしていきたいと思っています。

その他のところですが、「東京防災」についてもイラストについて、複数ご意見をいただいています。例えば人物のイラストについて、「料理しているイラストが女性」で、「指示しているイラストが男性」となっていますが、原稿案は現行の「東京防災」のイラストを引用していますので、修正していきたいと思っています。

その他、特に第5章において「個別避難計画」についてご意見をいただいています。こちらも補足していただけるようであれば、ご意見いただければと思っています。

「東京防災」でいただいているご意見は以上です。特に太字の項目を中心に、その他の項目、その他この資料に出ていないことも含めて議論いただきたいと思っています。

最後にブック全般についてのご意見です。まず文字量の話です。冒頭にもお話をさせていただきましたが、特に「東京暮らし防災」のほうで、色々と記事を盛り込んだほうがいいのかというご意見もある一方で、第1校の文字量でも多いのではないのかというご意

見もごさいます。こちらの対応方針については、事務局として冒頭申し上げたとおり、「東京くらし防災」は「より手軽に取り組んでもらう」ということで、第1校の文字量が結構多いので、もう少し文字量を抑えて、イラストをもっと駆使してわかりやすい内容にしたいというふうに思っています。この文字量についてもご意見をいただければと思っています。

そのほか、アプリとの連携について、スマートフォンでアプリと連携するなど、「冊子以外にも積極的に展開してはどうか」というご意見です。「防災ブックの電子版を作る」ということと、「冊子を配送する」ということは決まっていますが、専用のアプリ制作などは時間がかかるかもしれませんが、今後検討していきたいと思っています。また、広報展開については、「効果的な広報を行うべきだ」というご意見です。こちらについても、電子版を公開する9月の前のタイミングや全戸配布を行う11月の前のタイミング等に効果的な広報を展開できるよう、別途検討しているところです。

皆さまから事前にいただいた主なご意見はこのようなところです。特に太字のところを中心にご議論いただければと思います。

資料最後のページは、全体のスケジュール感についてです。吹出しの原稿作成のところですが、本日ご覧いただいた第1校を踏まえて、事業者と調整しつつ、一週間後程度で、今日のご意見をふまえた修正案をまた提示させていただきたいと思っています。恐れ入りますが、1週間程度でご意見を一旦締めさせていただきければと思います。今月で原稿、デザイン、イラストをフィックスさせるというのが目標で、音声コードをその後8月に入れていくこととなりますので、完全なフィックスは8月10日です。そこから逆算で日程を構成しています。

なお、第5回の委員会につきましては、今月末頃、原稿が固まる前後に書面開催ということで開催させて頂き、その間、個別に調整させて頂ければというふうに思っています。

事務局からの説明は以上です。本日のご議論、よろしく願いいたします。

○中林委員長 ありがとうございます。では、残りの時間は、皆さんのご意見を頂くこととなります。

それではまず「東京くらし防災」について、私から発言します。

全体を通してですが、「東京くらし防災」は、水害に関して数ページありますが、基本的には地震に関する記載となっています。「東京くらし防災」は「いますぐやる」ということで、「地震の前提に必要です」ということだと思います。本の中では災害という言葉がたくさん出てきますが、ほとんどの記載は地震に関することになっています。そののところをどうすべきか。「東京防災」のほうには地震だけでなく、風水害や国民保護法まで含めて記載されていますが、「東京くらし防災」を前提として「東京防災」があるとすると、「東京くらし防災」を読んだ後だと、要は地震の話から入ってくる頭となっているので、どこをどうしたらいいのかと考えています。

もう1つは、「いま」というものが、その時ではなく、いわゆる突然起きる、ということと、「今地震が来たらどうする」という話は凄く分かりやすいと思います。しかし、「今台風

が来た」といっても、台風は数日前から分かっています。「今、ゲリラ豪雨が来たら、」といっても、それも数時間前にはわかっているので、いわゆる本当に突発で起きるという意味で言うと、コンテンツの内容から言うと全部地震しかないので、さてどうするという課題です。序章では、「今地震が起きたら、」という表現でもいいのではないかと思います。これは我々が考えなければいけないだと思いますが、どういうふうにしていけばいいか。

それからもう1つは、最大のこの本の目的は、「命を守ってください」、「命が守れるように備えてください」ということ。「それを実行してください」ということだと思っていますが、その「命を守る」ということに関連している「避難」という言葉が、十年前の「避難」の作り方のまま進化していないということがあります。避難には2つあります。命を守るための「避難」、まさに難を逃れるという「避難」と、自宅でのいつもの生活ができないから、自宅以外で避難生活をするという意味での「避難」という2つの避難がありますが、どちらかという「難を逃れた後にどう生活するか」という話が、コンテンツになっています。東京都の被害想定で言うと、地震火災、建物崩壊で多くの被害が出ますが、建物の話は出てくるものの、火災の話についてはあまり出てこないという印象があり、気になっています。

今回水害の話も入れますが、水害の「避難」は「事前の避難」です。被災した内訳は、浸水があり、「家で生活できなくなったから、避難所で生活する」ということになりますが、家で生活できなくなったから避難所で生活する点は、地震も水害も同じです。何が違うかという、突発災害で地震が起きてびっくりして「避難」したり、あるいは火事があった「避難」があったのと、「避難情報が出て、それに基づいて避難をする」際、「一カ所避難場所の指定がしてある」、というようなことが全然ここには出てきていません。急いで「避難」する必要があったら急いで「避難」しますが、その前に、早めに「避難」してくださいというのは大事なことだと思います。

そういう意味で、突発地震が発生したときの命をいかに守るかという点について、もう1つ抜けていると感じるのは、地震被害でいうと、火災からの「緊急避難」ということになります。これは、構成全体にかかわる部分となります。ここをきちんと説明しないと、個別の避難の流れの説明があったとして、「ではどうすればいいのか」という、根本にどう対応したらいいのか説明がないまま進んでしまうのはいかがなものかと思っています。

もう1つは、今のルールでは「在宅避難が基本」としていますが、被害想定は「いま」によって被害は違います。同じ地震でも、深夜から早朝、みんなが家に居る時に起きた地震と、夕方や日中により異なります。火災のことも、どこかに入れておいていただいたほうがいいと思います。また、帰宅困難者についても同様です。「留まってください」、「動かないでください」と言うことは、やはり伝えていかなければいけません。今の記載では、発災直後の避難と移動について、「どこに行きます」といものが無く、「どこで避難生活しますか」という避難の説明にしかなくなっているように思えます。水害時の避難というところは「緊急避難」の話で、最後に余裕がなくなったらなるべく早めに「水平避難」をして、ほかの地域でもどんどんその命を守るために「避難」をするというものがありますが、「東京くらし防災」108

ページの中では、発災直後の避難所移動というのは、地震の時には、火災からの避難も当然のことであると思います。

もう一点その関連で言うと、「東京くらし防災」序章のイメージについてご意見がありました。例えば4ページ、5ページのイラストの街は、東京の「防災都市づくり推進計画」が目指しているゴールで、「こういう都市なら安全です」というイラストです。次のページでは、ここで火災が出るということは分かりますが、何が燃えているのかわからない。車が燃えているのか、街路樹が燃えているのか、ビル火災が起きているのか。これも全然リアリティを感じません。8ページ、9ページもそのイラストを使っていますが、やはりリアリティを感じません。多くの方がマンションに住んでいるのは事実で、東京の場合、半分を超える程度の割合かと思いますが、やはり市街地や木造の住宅地のようなイラストが最初にあり、それに対して具体的に記載していくといいと思います。また、緊急避難について大きな問題として取り上げてもいいのではないかと思います。

私としては、ぜひ、災害が起きた後、一番悩む課題のひとつである「火災から命を守るための避難対策」、これをちゃんと都民に理解してもらうことは凄く大事なことになるので、何かを削ってでも入れるべきだと思います。できれば「東京くらし防災」のほうから入り、皆さんにとって自分ごとになって、詳しく知りたいという人が「東京防災」を使うということにしていますから、必要な事項が「東京くらし防災」で都民の目に触れるということにしておくことが大事です。マンションも木造住宅も、室内での防災というものはかなり共通しているので、部屋の中でこういう事態が起きるということを共通で見てもらえると思います。

私が問題と感じる部分はこうした点ですが、ほかの皆様はいかがでしょう。

○鈴木委員 全体としてよくできていると思います、細かいところを見ていましたが、ただいま中村先生のお話を伺い、その視点で見るとそのとおりだなと思いました。「東京くらし防災」は、結局地震だなと思います。地震対応になっているので、今は大きな地震だけではなく、「火災」や「線状降水帯」、「台風」もあり、いつどこでどうなるかわからない、というこの3つがみんなの関心事であって、そのときに防災ブックを開いてみようと思って、「風水害が来た時にどうしたらいいのか」という視点で防災ブックを見てみると、そういう作りになっていないというのは凄く大きい話だと思います。地震が来た時はすぐに使えるものの、地震ではない災害時にはそのようになっていないと思います。ではどうしたらいいのか。「東京防災」に完全に合わせて地震、台風云々という形にするのか、そうではなく、今の構成を活かしながら、要素を入れていくか。地震がメインではあるものの、「火災の場合だったら」、「台風の場合だったら」という要素を今の構成のままの中に入れ込めるのか、ということは考えないといけないのかなと思います。

要配慮者やジェンダーの観点からすると、この部分は少しまとめられるのかなということも思っています。「避難をする場合の支援の仕方」と、避難した後、「避難所での配慮」ということであれば、そこの中では、「要配慮者的な視点」でまとめられるから、「地震時」と「災害時」などと分けなくてもいいというのはあるのかもしれないなと思いました。今日は

完成するという形なのかなと思いながら、中林先生がおっしゃったように、みんなで使ってもらうときに使われなくなってしまう可能性があり、台風が来たとき「これを見よう」という形にならないな、ということは、私も思いました。頭から見てみると、地震に対しては使えますが。火災の場合は「外に出て逃げて、広域避難場所に行って、その後に戻れるかどうか」という話でしょうし、台風などであれば「広域避難というよりは、避難所に行く」という話だと思います。

○中島委員 「今、ここで大地震が起きたら、」というイメージで、この最初のタイトルがついているケースが多いので、共通しているところもあると思います。例えば備蓄など、そういうものに関しては、見ている限りは風水害でも、地震でも、同じ備えが役に立つというケースもあると思います。全体的に何か追加して削除するというのが難しいかもしないので、今からできる対策としては、アイコンのような、「これは風水害以外にも役立つ」というようなものを入れるやり方もあると思います、パッと見ると地震の情報が凄く多いと思ってしまうので、「地震」と書かず、「色々な災害に役立つことだ」と記載し、更に「風水害だけはこれ」、「火災はこれ」、というふうに簡潔にまとめられるといいのかなと思います。共通しているところもたくさんあるだろうなと思います。

○池上副委員長 市民の方とお話していると、こういうものを含めて情報があまりにも入っていて、「頭でっかちになって何をしたいかわからない」という声が凄く多いです。そのため、私は、災害への備えとして、「怪我をしない」、「命を落とさない」、「火事を出さない」備えという3点に絞って話をしました。地震の後に火災が起こり、風水害の後も電気火災も含めて色々起こりますので、先ほど中林先生がおっしゃっていた、「東京くらし防災」の冒頭部分も、「そのようなことになると煽り、準備させよう」という意識があって、それはあまりよくないのではないかと思います。火災の最初は凄く小さいですね。だから、初期消火をやるのが市民の役割ですよという点が大事です。逃げてしまうと消す人がいなくなってしまう。私が所属する市民防災研究所の創立者が関東大震災で体験しています。1ヶ月前に作った新築が焼けてしまいました。そういう経験があるから、火災に対する備えは自分で考え出していました。バケツリレーの記載は削除して、他の情報を入れるということですが、商品の宣伝になってしまうので出せないですが。市民研究所では、特殊な袋に水を入れて、それをいつも常備して、いざ火災があったらそれを投げるといったものがあります。

この前も有明で国際消防防災展がありましたが、体験した人は分かるけれども、こういったものもあるということは覚えてください。

○鍵屋委員 対応方針などを見まして、ありがたいなと思います。それから防災の話ですが、やはり「重要なものを順番に並べていく」のがいいのではないかと思います。色々なものが同じようにあると何をやっていいかわからなくなる。私自身の感覚で言うと、今の状況では、とにかく家具の転倒防止。家具が倒れてこない、倒れてこないところに住む、あるいは環境を作る。そういう、「とにかく部屋の中を安全にする」。「少なくとも寝室を安全にする」ということが、まずは最初の一撃から身を守ることで、それで怪我をしなかったら次のステー

ジに進んで、そこで怪我をしてしまうと、場合によっては命を失うでしょう。そういう重要なものを、例えば、マジカルセブンの最大の7つ程度が、人が認識できる範囲で、そう考えたときに、大変申し訳ないのですが、クエスチョンのように、「皿が倒れない重ね方の順番を書かせる」といったトリビアの質問するのはいかがなものかと思います。

○富川委員 このページはいらないのではないのでしょうか。鍵屋先生のおっしゃったマジカルセブンを作ったほうがいいのではないのでしょうか。

○鍵屋委員 これをやれば、とりあえず最初の一撃から身を守れて、まずその日は生き延びられる。その日は生き延びられるものの量を増やせば、何とか生き延びることができるだろうと思います。そう考えたときに、スポットで重要なのは、特に古い木造住宅の耐震化なのですが、関係ない人も大変多いので、誰でもやらなければいけないのは間違いなく家具転倒防止です。それから、トイレ。水・食料など。誰でもやらなければいけないことと、「赤ちゃんがいる人はミルクが必要」というふうに、特別な属性によって個々に加えるといいのではないかと思います。防災診断をするのは、最初に面白みを与えて、それで誘導することを考えたのですが、本当に重要なことを聞いていないなという気もしました。この面白さと何が大事かということキュレーションするのが、今回の重要なところだと思います。誰でもやるべき備えを記載し、特別な人の備えを記載して、特別な人とその人の特性や家族の属性によって、必要なことを備えているということが重要です。その後にできればこういうことやったほうがいい、というものがあるといいと思います。この防災診断では、何をやればいいのか分かりにくい。

○富川委員 「東京くらし防災」17 ページを見ると、おススメの対策とタイプ別対策が、ほとんど同じになっていて、キュレーションが足りていないと思うので、あまり意味がないと思っています。そうであれば、これを読んだ東京都民の方が絶対やってほしいことを3つ書くことや、火事などの話をまずここに書いて、全員が取り組んでみることを書いて。そのあとにニーズに合わせてこういうことがある、という構成のほうが冒頭としてはいいのではないかと思います。

○鈴木委員 厳しい言い方をすると、この防災診断のページはいらないということになりますね。鍵屋先生のお話と合わせると、目次があり、1章が事前の備えで、2章が発災時であれば、事前の備えで一番重要なものについてチェックリストのようなものが入り、これだけはやるということにして、2章の頭のところに、災害が起きた時にこれだけは気を付ける、というものを、入れるのであればそういったものかと思いました。

○富川委員 先ほど池上先生がおっしゃっていた、「災害が起きた時に、必ず命を守って」という話と、最初の火消す話は、どの災害にも共通していることだと思います。「今備えとしてできること」と、「発災時にできること」というものは、7つより少なくてもいいと思いますが、もっと分かりやすく出したほうが、「東京くらし防災」に関してはいいと思います。3つ程度で、これならできるかな、と思わせるのが役目だと思います。

○中林委員長 この防災診断は、基本的には正解数でプラスになり、何をやったらいいのか

というのは、「間違っただけの問題を正しく理解してください」という作りですが、「間違っただけの問題を正しく理解し、対応して実行しましょう」ということが大事で、正しいおすすすめ対策です。そういう意味では、これが本当に重要なクエスチョンかどうかということは充分議論しなければいけないと思います。非常に重要な課題を10問作り、間違っただけのところは正しく理解して。正しいことをやってもらうようにして、設問に対してどこを見たら正しいことが書いてあるのか、分かるように紐付けしておくといいのかなと思います。こういう入り口というのは、自分は全問正解だという人も少なからずいるかと思いますが、興味はあってもほとんどできなかった人は心配になって中を見てくれるだろうと思います。構成に当たっては、できればこの問題10題に関する回答は、「東京くらし防災」の中で完結できるようにしてあるほうがよくて、更に知識を深めたい場合は「東京防災」を読むといいだろうと思います。

「東京くらし防災」を作成した際は、「東京防災」があることが前提なので、ほとんど対策しか書かれていません。2冊にした結果として、「東京くらし防災」はすぐにやることを記載して、知識を含めて細かいところは「東京防災」にするという構成にしましたが、「東京くらし防災」第2章では、災害が起きた際のことを記載しています。この部分はかなりのボリュームがありますが、おそらく「東京防災」との重複感がかなりあります。その部分は少し減らすか、第2章を第1章にして、第1章を第2章にしても、本としておかしくないと思います。つまり、「災害が起きたらどうなるのか」という記載で備えへの必要性を認識させ、「ではどうしたらいいのか」ということを第2章に記載して、「今から備えるものがある」ということを認識させる構成です。今の「東京くらし防災」の構成を意識して、第1章を「いつでもすぐ」という考え方にしていますが、第2章で「災害起きた後」というところで少しより戻してしまうと思います。

私が先ほど言ったような話も含めて、入り口に書かなければいけないものは、序章のクイズ部分で、「災害はどのような被害が発生して、あなたはそれを知っているのか」など重要なことを問題にして、「なぜ備えをするのか」ということについては、第2章で、「さあ一緒に始めましょう」というふうに作り変えてもいいと思います。今から始めるきっかけはこの最初のクイズです。クイズを冒頭に持ってきたのはそういう意味で、「手にとってやってみてもらおう」という意味では、大事なものかなと思います。その入り口からうまく本の中にガイドする為の仕組みとして、もう少し整理したものを検討していただいたほうがいいと思います。

○鈴木委員 「防災ブックをどう使うの」というと、「災害があった時とかにも、すぐ使える」という観点からすると、第2章が本の頭にあっただけのほうがすぐ見ることができると思います。そのために事前に日常でやらなければいけないというものもあっただけがいいのかなというふうに思いました。それで、日常的にこういうもので恐怖を煽るのではなく、先ほど池上先生と話されましたが、火災や地震など、災害が起きた時に一番重要なものを端的に書いておけば、クイズはいらないのではないかと思います。

○鍵屋委員 「災害のときに役に立ちますから、絶対捨てないで持ってきてくださいね」、

「普段から見て準備してくださいね」、「災害の時にも絶対役に立ちますよ」、「災害の時に必携ですよ」と、災害時必携みたいなイメージにすれば、「大きな地震が発生しました。あなたが今やるべき事は」という形でできていくと、それはそれで凄くいいと思います。どうしても予防していないと、いきなりやられてしまうと思いましたが、それは確かに読み進んでいただいてから、「でもこうなる前にこういうことやったほうが、そもそも大事ですよね」というのは次にやってみて。災害時必携にすればいいですね。

○中島委員 「いつか役立つから見てね」というコンセプトはいいと思いました。本の作りとして、皆さんから意見が出ている、2章の、「災害が起きたら」、「発災直後の行動のこと」などを、「東京防災」のやり方を踏襲して最初に出して、そこから知識編のほうが始まるという作りですが、色々作ってきたときも、実は同じように作っていて、「このようなことが起きるから対策しよう」とか、割と具体的にそこを見せてから、「まずこれやっておかなければ」と思ってもらって対策にする、というのが普通の流れかという気がしますので、第1章と第2章を逆にするのもありだと思います。ただし、発災時にはこういうことが起きてしまうということだけであれば、最初に出していいのかなという気もしますが、発災時の行動を具体的に書くのであれば、今のままだもいいと思います。発災時のことを最初に出すのは、ある意味脅かしの部分もあると思うので、バランスかなという気がしました。

章の順番を変えることについては、私はいいことだと思うし、今であれば調整ができるところで大丈夫だと思います。後は、ここまでの議論で出てきていた風水害のことですとか火災のことですとか、そういうものをフォローする本であるということはどうするのかということですが、扉の所のメッセージでまず、地震のことだけではなく、「風水害や火災などもある」ということをまず言うてしまう。また、第1章のプロローグの絵について、「これは火災だから私は対策しなくていい」とはならないと思います。水害対策でもあるし、地震対策でもあるし、火災対策でもあると思います。

家でやる事は一緒なので、私は「水害対策用に備えておこう」といったことをキャプションで書くのはいいと思いますが、そこまでそれを明確に「これは凄く役に立つページです」といった形で分けなくていいもいいのではないかと思います。結局、何をやるのかはいっしょくたでもよく、いざという時に役立つという理由をしっかりと書いておけば、むしろカテゴリー化しなくてよく、シンプルに「自分が何をすればいいのか」が分かってくるという作りになっていればいいと思います。ただし、「発生時の行動に関してはきちんとフォローする」という作りにはどうでしょう。例えば「水害時は3日前から分かっているから違う地方に避難する」ということについて、私たちには普通のことかもしれませんが、「離れてはいけないのではないか」といった気持ちだったり、本当に「電車で2時間遠くに行けば普通の生活が待っていたりする」といったことを思い出せないとか、そういうことが凄く多いと思います。「火災だったら」、「地震だったら」などを分けて書いておけば、懸念点はフォローできるのではないかというふうに思いました。

避難所や避難の方法は災害により違うと思うので、書き分けは必要かと思います。クイズ

のことに關しては、前回の議論で出ていた、テストのようなものを1つ入れると、全然今まで意識がなかった人たちが読んでくれるのではないか。だから、「こういうとっかかりやすいものを最初のほうに入れるのはいいことではないか」という意見が出たので、作ってもらっているということだと思います。こういうものを入れると自分ごとになると思います。クイズの内容に關して、要検討なのは本当にそのとおりですが、ゲーム性がある、楽しんでできるものを入れる、という方針はあると、本が読み物だけではなく、「自分もちょっとできることがある」と思ってもらえるので、内容次第で入れるのはいいと思います。

現時点の内容は借り置きで入れているだけなので十分議論していただければ内容は良くなっていくと思います。「クイズの正解がこれで、このページ見てください」という形ではなく、「正解を誘導するページにする」という使い方にするのであれば意味があると思います。役に立つページにもインデックスにもなると思いました。4、5、6、7ページに關しては、色々なパターンを出していて、「不安を煽る」ということではなく、「どういうことが起きるのか」をイラストで示していますが、これは仮の絵だと思います。分かりやすい資料を作る者として、「こういう感じで火災が起きたりする」ということをイラストで表現しますよ、ということで、仮の案を出しているだけで、今後全然違う印象のものになると思います。その反面で、先ほどご指摘になった、「こういう都市なら安全」という理想の形を絵にしているものだとしたら、色々な被害が出ているのは成立しづらいと思います。木造密集地域や住宅地、学校、オフィスなど、架空の1つの町のイラストにして、「ビルが倒れる」、「住宅地で火災が起きる」といったイラストにすると、よりいいかと思います。

8ページから11ページのイラストに關することですが、「建物の下敷きになる」など、そういうものを盛り込んでいただきながら、1つの架空のシチュエーションを作ってくれるのだと思っているので、私はいいのではないかと思います。人物のスケールがデフォルメされているのは、むしろ必要なことだと思うので、そこはそうしてイラスト化するのはいいかと思いました。後は、全体的にご指摘ありますけど、やはり文字量がどうしても多いと思います。どう削っていくかということが凄く大事かと思います。

○中林委員長 冒頭の都市のイラストについて、私は、これが今、東京でやろうとしている防災の1つの目標で、「このような街にしたい」ということだと言いました。この目標の街のイラストが後ろの裏表紙の内側にあり、表は現状の東京に近いイラストにして、「皆さんも防災をやって頂くと、将来東京がこうなる」という位置づけにしたほうがいいかと思います。

この目標に対して、次のクイズがあり、「このような問題が起きるけれど、どうすればいいか」ということで、クイズをするという流れがあると思います。冒頭部分の災害イラストを見て、「このような状況が起きると直後、何が起きる」ということと、「災害が起きて何が困る」ということですが、この「災害直後、何が起きる」というのは、6、7ページのタイトルからすると、第2章ですね。「今、災害が来たらどうすればいいか」ということについては、「災害後に困ることに対して、備えてくださいね」という話が第1章になっています

ので、やはり、第2章と第1章は、ある意味で逆にしたほうがこのクイズの流れにも沿うし、回答を紐付けした時も、順番どおりで見てもらえるかなと思います。

そういうふうに考えると、86ページから始まる第2章ですが、「実際に災害が起きたら私はどうなるの」という話を載せることになります。どこまで載せるかですが、「緊急避難で家を出るまで、そこまで安全です」というところまで載せないといけないと思います。そこから後のページは水害のほうの話になっていて、その後の生活の助け合いなどに続きます。

基本的には「被害を受けて家から避難せざるを得なくなりますかもしれません」という程度のところまでを、絵を中心に載せていただく。プラスが一番多いところではありますが、これ程度が第1章で、「今災害が起きたら、みなさんの家がこうなってしまいませんか？」というものを取り出して見ていただくという形が、地震に関してはいいのかなと思います。

水害に関して、あるいは火山の話でもいいのですが、「これは応用編です」というと、火山の話はもう「東京くらし防災」からは無くして「東京防災」だけにして。「噴火の可能性があったら避難する」という話がありますが、これは東京の場合、島しかないですね。東京の三宅島大島では、噴火するときに「全島避難」のような話になりますが、むしろ「富士山噴火の降灰で、東京では大混乱が起こります」ということで、「東京で富士山が噴火する」ということは、「事前の避難の鉄則」では全くありません。「電車が止まるから通勤できません」とか、「車が動かなくなるから緊急事態宣言で今日は出社するな」となり、「学校も今日はお休みです」ということになってくると思います。原稿の絵はまだおかしいですが、その他の災害の部分は「東京くらし防災」では載せておかなくてもいいのかなと思います。

「東京くらし防災」第1章の備えというのは、色々な災害にも共通するものなので、もう1ページ、コラムなどを入れて、なるべく、「今、災害が起きたら」ということを自身中心に考えてもらい、そういったことでクイズから、「災害が起きたらこうになってしまう」ということがわかって、「ではどうしたらいいか」という話につなげるといいと思います。ぜひ、その中に緊急避難として、「地震火災時の東京の避難システムは独特で、全員避難しなければいけない」と思い込んでいる人が多いですが、「そこに止まってください」という時もあるという話なので、そういうことをしっかりと伝えていかなければいけないと思います。

○事務局 一点だけ事務局から補足です。なんの災害を入れるかという話ですが、基本的には「東京くらし防災」ですべて読めるようにしたいと思っています。先ほど中島先生もおっしゃったとおり、どの災害でも共通の備えから始めていて、そうは言っても、特に避難の行動などは災害によって違うので、そういう意味で、142ページからの部分で、その他の災害ということで、台風や豪雨災害や、火山も含めて色々入れているというところがあります。

考えとしては、台風などが「東京くらし防災」の中に入っていないということではなく、台風なども含めて全部読めるようにしますが、特に避難の部分は地震とは違ってきますので、142ページから別途、「災害種別の身の守り方」というページを入れているという説明です。

また、時系列の話ですが、冒頭部分で、最初に「発災時にこんなことが起きる」という、

6、7ページから、このようなことが起きるので、「まずは備えましょう」というところにつないでいて、その所で「色々な災害の共通の備え」というものについて、ここは確かに地震が中心ではありますが、あえてそういうことを書かずに、どんな災害でも対応できる備えというところから入っています。

発災時の第2章に行きますと、災害により違うところがあるので、142ページから災害別のページを設けているという考え方で構成しています。

○中林委員長 わかりました。原稿案のイラストは必ずしもそういう流れになっていないように見えます。もし本当のイントロ中のイントロとして、「災害起きたら今このようなことが起きますよ」と説明して、テストをして、「さあ、あなたはどこまで知っていますか」と聞く流れは大事にしたいと思います。そこで言うと、9ページの上のものは属性でしたか。そのことはずっと出てこなくて、一番後ろの「我が家のカルテ」で出てきます。そのほかのイラストもばらばらとしすぎていると思えます。例えば、最初に「下敷きになりました」ということで、「エレベーターに閉じ込められました」とあり、それから次の「台所がぐちゃぐちゃになりました」家が倒壊しました、あとはその他先ほど言った第2章の頭のほうに入れてくるところから重要な課題では、「停電になりました」など。

やはり、8、9、10、11ページのイラストの並び方というのも、工夫があっという間と思います。8ページについて、「時間の流れでどういうふうに推移するのか」、「今起きたらどうなる」という流れが分かるようになっている必要があります。

以前「東京くらし防災」を作成した際は、「東京防災」が2年前に出ていて、「東京防災」があることを前提に作ったので、要するに、「災害でどうなる?」「どうしたらいいの」というのが示されている上、「今、あなたやるべきことは何です」という作りになっています。原稿案は、これを全部差っ引いて、いきなりやることを書いているということです。

今回も同じ流れですが、第1章から入るときには、やはりこうした備えを載せる必要性を考えたほうがいいと思います。今回の構成で言うと、第1章の備えは、結局、「なぜこのようなことまでやらなければいけないの」と思われます。第1章が詳しすぎるので、そういう意味では、やはり「こういう事態が起きるから、こういう考えが必要だし、こういうことも大事な備えなのですよ」というふうな読み方、構成がいいのかなと思います。

○事務局 中林先生のおっしゃった8ページから11ページまでのものは、イラストなどすべて仮のものになっています。読みにくくて申し訳ありませんが、8ページから11ページのところで、「災害時にこのようなことが起きます」と事例を紹介して備えのページに飛ぶようにして、「こういうことが起きるので、実際に発災したときは、このページに飛びましょう」というふうに、第1章の該当ページや第2章の該当ページに飛ぶようにするという考え方で作っています。イラストや文言がまだ精査中のところがありますので、そこを分かりやすく、8ページから11ページで、「このようなことが起きるので、備えの何ページに飛ぶ」とか、「発災の何ページに飛ぶ」というところを分かりやすくできればと思っています。

○鈴木委員 「見ると該当ページ飛ぶから、」というのとは分かりませんが、普通の思考からす

ると、災害が起きましたとなって、「だから事前の備えを一緒にやりましょう」となるよりは、災害が起きたから、「ではそこですぐ対応するにはどうしたらいいか」という話になると思います。ではそれを、「もともと対処できないものがあるから事前に備えを」というほうが流れやすいだろう、というのがこの中で出た議論なので、中身をどうするかというと、単純にやるのであれば「そのまま第1章と第2章を逆にする」というのがあるのかなと思っています。ただ、私は結構文字人間だからかもしれませんが、今の第2章では、結構無駄な絵と言うか、大きい絵があるから、全体のバランスを考えると、「今の絵のままだと凄くスカスカ感はあるな」と思っています。それは個人的な感想かもしれませんが、細かい話はまた別に議論しますか。

○富川委員 確認ですが、本日議論するべきところは、全体的な構成であったり、例えば「第2章を前に持ってきたほうがいいのではないか」とか、そういった話をするべきところというところでいいでしょうか。鈴木先生、今凄くいっぱい読まれていて。

○鈴木委員 細かいところを読んでいたのですが、中林先生が話されて、その視点は気付かなかったので、多分変えたほうがいいなと思いました。

○富川委員 今日は、まずは初校として出してくださったと思うので、ほぼ仮の原稿だと思います。細かい部分に関しては、例えばこのタイプ別診断に関しても、この今の原稿の10問は、とりあえず文字を当てているという程度の出来と思っていますが、そういう認識でいいでしょうか。スケジュールを見ると12日頃に修正案が来るとなっていますが、その前に私たちが細かい点についてお伝えできるタイミングはあると思っていますか。

○事務局 前回の委員会で、構成案と台割案については、その後、個別に調整をさせていただいて、構成案は決定でいきたいと思っています。

○富川委員 では今日は、「細かいところを話そう」ということ。

○事務局 中身のこういう点が少ないのではないかというご意見については。

○中林委員長 構成が送られてきただけで、議論する場がないのであれば、「それだったらこのように集めないでやってくれよ」という話ではない？開き直りではなく、「今だからまだタイミングとして今日なら間に合うだろう」と。大きい構成を入れ替える。むしろ細かい項目をどこに入れるかではなく、大きな構成について、「本当にこれでいいんですか？」という議論をやはり今日させていただかないと、私としてはもう一生涯悔いに残る。そう思って、でも「中林がうるさいから辞めろ」となったら、降ります。私の言いたいことは、やはり「みんなに読んでもらうこと」と、「読んだからいいや」と古本屋に持っていくとか、そうではなくて、「捨ててしまおう」ではなくて、やはり手元に持っていて、いざ災害が起きたら、「凄い天気予報が出ているから、こうなったらどうなるんだろう？」と言ったときに、これを読み返してもらえる。「どこかで大きな地震があった」、「東京で起きたとしたらどうだろう」とその時に見直して。そういうふうに、持っていてももらいたいです。その時に使いやすいという意味では、やはり今の東京防災の最後の部分については、用語集や索引がつく予定ですし、構成として、例えば目次を見たときに、「地震、水害について、ここを

拾って読めばいいのね」ということが分かるほうが使いやすい。そういう構成の工夫というものが、使ってもらおうという意味では凄く大事なことではないかと思います。

どういうコンテンツが入っているかですが、「それは入っています」とアリバイで「入れることを確認すること」が大事ではなく、「それを都民の皆さんが、パッと拾い出して必要なことを学べるような、使い勝手のいい本の構成になっていること」が、より大事なことかなと思います。今回、QRコードでさらに詳しい話はそこで読める作りですが、そういう意味では、もう今日しかないと思います。改めて、工夫ができるのではないかと思います。

○池上副委員長 「東京くらし防災」の中で気になっているところがあります。88 ページのあたりの、「地震発生その瞬間」ということで、「自分の身を守りましょう」ということが書かれているのですが、1、2、3、4、5あたりですね。揺れが収まってから「ケガに注意して行動する」、「火を使っていたら火の始末をする」、「ドアを開けて出口を確保する」、というのは、3つとも「揺れが収まってから」してほしいですね。

それで、順番について、分かっている人はこれを見てわかるのですが、90 ページ、91 ページのイラストを見ると、順番というよりも、「あっ、火を消さなければいけない」、「ドアをあげなければいけない」、と、書いていますが、一般の方にとって、「パッと状況が眼に飛び込んだので、やらなければいけない」と行動に移る人がたくさんいます。これは、「揺れが収まってから」することで、「揺れている間に動くとかケガをするから」と散々言っているのですが、この番号とか色々見てくれた文章を読むと、「きちんと揺れが収まってから」、火を使っていたら火の始末をすると書いてあるんですよ。でも 88 ページのところでは、1、2、3で、揺れが収まってから「ケガに注意して行動する」、「火を使っていたら火の始末をする」、「ドアを開けて避難する」これは「揺れが収まってから」3点やるのですよ、と言うことを、少し書き方を変えていただきたいなと思います。揺れている間に動いてケガをしている人は相変わらずいます。

それから先ほど鍵屋先生が必携品とおっしゃっていましたが、防災ブックができた暁には、都内ではエレベーター使っている人が多くて、エレベーターの中に備蓄する三角形のものがありますが、その中に入れてもいいと思います。中に閉じこめられたら、焦らずにそれを読んでもらいたいと思います。

○中林委員長 今のところで、「東京くらし防災」89 ページのところですが、緊急地震速報の解説は全く東京のためになっていなくて、首都直下地震前提では、緊急地震速報より先にもう揺れ出しています。能登でこの間、起きた地震がありましたね。被災者のインタビューを聞いていると、「速報が鳴る前に、もう揺れていました」と言っていました。直上の場合、緊急地震速報も間に合わない。地震の場合、揺れてから気象庁に行って、そこで速報が出ますが、多分、気象庁が揺れを感じる時に、実は我々も揺れを感じていると思います。だから、「緊急地震速報を受信したらどうする」というのは南海トラフ地震の時の話であって、首都直下地震の場合、「緊急地震速報は間に合いません。だから日ごろの備えが大事です」というメッセージを発信したいと思います。そうすると、先ほどのページでは①が違います。受

信したらではないです。「受信する前に揺れが来ますから、安全確保のために備えをしてください」ということです。

○鍵屋委員 今から修正するのは難しいかもしれないですけど、揺れ始めた時には、もうこの本を見る暇がないわけですから、その時の知識で、「これだけは絶対しておいてほしい」と、もうそれも多分1ページ目に、「自分の身をしっかり守って揺れがおさまるまでは無駄な動きを絶対しないでね」と。揺れている時に動いてしまうのが圧倒的に多いわけです。仕方がないので、「その後にこの本を取ってください」、「揺れがおさまったらこの本を取って、何ページを見てください」。本当は、私は「余震に備えてヘルメットをさせるべき」だと思いますが、ヘルメットというのはきつかったと思うんですけど、「ヘルメットをかぶって余震に備える」ということがまず大事で、その次くらいに色々なことがあるのだ、と思います。

それから「自分がケガをした場合にどうするか」ということを書いているとか、「揺れが収まってからこの本を見ましょう」という部分で、「この本のこことここを見ましょう、でも、揺れが始まる前にこういうことをやっておきましょう。」この本の位置づけは、「揺れが始まる前にこれをやっていきましょう、揺れる前にこの準備をしましょう、でも、揺れた時は一番1ページ目に入れたこれを覚えてください」というものかと思います。「家にいるときは防災ブックを読んで」、「家にいないときはどうしようか」というのはありますが、ポケットマニュアルを作るのもあるかもしれませんが、「これをコピーして持っておいてください」というのが、あるのかもしれないかなと思います。「外に行く時はこれを持って、あるいはスマホに入れといてください」というのはあるのかもしれないです。

なんとなく本日の話を聞いていくと、この本を活かすためには、今言ったような使い方がいいのかな、と思います。だから、すぐに取り出せる場所に置いておいてください。

○中林委員長 「東京くらし防災」、「東京防災」について、時間に限りがあるのは重々承知していますけれども、ぜひ、より都民の方が必要性を持って、まさに「自らの問題としてやらなきゃいけない、必要なことなのだ」と理解してもらえよう構成の検討を進めていたきたいと思います。

それで、クイズ型でやっているのは凄く大事なので、クイズも、「災害が起きたところではどうなの」というようなことについては、クイズだけで充分かなと思っています。直後、「実は災害が起きるとこうなってしまう」というのが先ほど言った、せいぜい「避難する」とか、「電気の対応する」程度までの話で、その先は、もう被災後の生活で、とりあえず地震の強い揺れから命が助かった後の数か月で、これでいうと第3章に回してもらっても困らないのかなと思います。

○鈴木委員 個別に細かい点について、たくさんあるのですが、カットはしますので数点お話しします。44、45ページのところで、「再発行できないものを確認しましょう」とあるのですが、「そういう再発行できないものがどういうものがあるのか」。何かあれば、追加してもらえるといいなと思います。

52、53ページのところは、シヨールとかストールと書くと、「男性は関係ない」のような

感じになるかもしれませんが、季節の問題もあって、これから「夏でもあるといいですよ」のような話はあるのかなというところと、58、59 ページの一時集合場所のところは大混乱があって、一時集合場所があるところと、ないところがあるので、注釈というか、「自治体で確認しましょう」といった記載は入れてほしいなと思います。これを書くことで、逆に「それを探さないといけない」、「行かなければいけないんだ」という声もありまして、実際行った時に問題になったところで、同じ形が62 ページ63 ページのところ、一時（いつき）避難場所、一時（いちじ）避難場所など色々読み方がありますけど、その記述がある所が気になっています。

そして、76、77 ページのところ、常備薬と薬の手帳などの話ありますが、これは医療的なケアが必要な人と話したりしていると、「自分で用意しているけれど、それがなくなった時に、どこに問い合わせればいいのか」。医療局なのか福祉局なのか分かりませんが、そういうところで聞く話で、ここで聞く話ではないのかなと思いますが、そういったことが書かれているといいなと思います。

82 ページ、83 ページですが、ここで「乳幼児」という形で「幼い子供とする」というのがありますが、私が、乳児と妊産婦の避難所を作ったところ、乳児とその上の幼児では違うので、乳児という枠組みでの対応はしなければいけない部分があるので、ここは、「幼い子供」ではなく、「乳児」という枠は残してほしいなというのがあります。

後は、学生と話していると、生理が重い子たちは凄くいるので、その記述は欲しいという問題提起です。「どこにどう入れるか」はありますが、避難先とかでも、「生理が重くても全然対処して貰えない」とか、「過呼吸になってしまう」程度の子たちもたくさんいますので、そこへの記述がほしいなと思います。

84、85 ページのところ、「幼稚園」「保育園」との「もしもの約束を」とありますが、私が強調している「学校」も入れてほしいな、と。学校との間でも、引き取りとか、大川小もそうですけれど、「どうなっているのかを確認しましょう」というところは、自分を守るためにも、書いてほしい。そのところ「学校側もどうすべきか」というのはあると思いますが、時間も無い中なのでこの点はやめておきます。

あとは、防犯について158159 ページで、「空き家対策」で「被災した時は凄くこれが重要だ」という話が出ていて、「犯罪が起きる」というのがありますが、ベランダに洗濯物を干しておくというの、なかなか、それが対策なのかなというのがあります。もう1つ工夫というか、違った意味の防犯アクションが足せないかな、と思います。今、洗濯物を外で干している人はなかなかいないというところが気になる場所としてあります。

あと、鍵屋先生とも被る部分、専門のところなのですが、「福祉避難所」のところがありましたが、「福祉避難所に直行する」という記載がありましたが、時間がないのでごめんなさい。やめます。

166 ページ、167 ページのところ、「もしかして虐待？そのままにしない」というところ、
で、「子供に声をかけてあげましょう」とか、「あとは専門的な機関につなげましょう」とい

うような感じに直してほしいなと思います。その右側の「性犯罪から守る」というところも、ここは「複数人で対応しましょう」というのは難しい部分があるので、これは「身を守る」ということだけでなく、「支援者側が、それにどうやって対応するのか」というところを書いてもらうというところと、「誰に声をかけられるか」というようなところの記述も足してほしいなと思います。

すみません。時間かけました。

○富川委員 今細かい点について、私も何点かありますが、後日早めにお送りします。

○中林委員長 スケジュールで言うと、この打ち合わせで伺ったのは、7月19日がデッドラインで、それまでに、構成はこのままの形かもしれませんが、各局に回さなければいけないので、それまでに、我々からも意見も出させてください。19日以降はそれを元に原稿を校正していくということなので、今日喋り切れないことも個々に見るとたくさんあると思いますので、ぜひ早めに意見をいただければと思います。

私から一点あります。「消防団に入りましょう」という話があります。それも必要ではありますが、今、東京で必要なのは、「自治会に入りましょう」とか「町内会に入りましょう」、ということが、実際もっと切実なのではないかと思います。それを飛ばして消防団というのは、かなりハードル、ゲートが高いので、多分誰も読まないと思います。やはり「地域の自主防災組織」、「町内会」というものが避難所を運営します。避難所というものは、大きな避難生活をする「家」なので、「皆さんで運営してください」というキャッチフレーズが最初にあったうえでの避難所での暮らし方です。でないと、防災ブックを読むと、「避難所に行くところというサービスがある」と思い込んでしまう人が大部分ではないかと思います。

「みんなの家だから、みんなで運営して助け合ってください」それが避難所です。

ということと、「一時集合場所」ですが、避難場所まで行っていない避難者が、高齢者を含めて街にたくさんいます。そういう人たちをみんなで助け合って、まさに「インクルージブ防災」で、全員が避難します。そのために、「いきなり若者が我先に避難場所に逃げるの」ではなく、「みんなで避難場所に行くための場所」なのです。あるいは実際に「一時避難場所」と言っている所もあります。実際としては決めていないところもありますが。ただ、東京としては、やはりそういう形の「インクルージブ防災」というものがこれから大事なので、早めにみんなで助け合って、引っ越してきてすぐの人は昔から住んでいる人を助けてあげること、「どこに逃げ道がある」とか、「どこを通れば近道なのか」も含めて、一緒に逃げるというようなことは、やはり伝えていかなければいけないのはと思います。

そういう意味では、防災ブックについて、使い勝手とか、都民が、「本当にこれがあって助かった」と言ってくれるような書き方を挿入するところが多々あると思います。

もう時間がだいぶ迫ってきていますが、「東京防災」のほうについてご意見といただければと思いますが、いかがでしょうか。私は構成的には、「東京防災」は触らないほうがいいと思って見ていました。

○富川委員 10ページから11ページの時系列表は、ちゃんとできていると割とわかりやす

いと思っています。もしかしたら、横の見開きの方が見やすいかなと思いました。縦だと、「電力・通信」が見辛くなってしまうので、見開きで横に流れていた方が、読む人は読みやすいかなと思います。

○中林委員長 このページについてですが、実は、5月の新しい被害想定で、第5章のシナリオ想定で、「定量的に何軒壊れるか」は出せないけれど、こうした事態が東京で起きているから、「数字だけの問題ではない」ということで、こういったものを作りました。その時の構成が今の10ページ、11ページのような作りで、それをベースにしているので、今のようになっていると思います。その時はパワーポイント1枚に2ページ分入れていました。見開きにするのであれば、見開きの表の作り方があろうと思うので、それにさせていただく方がいいというご提案だと思います。あのままではない形で。

○富川委員 工夫があれば見やすくなると思うので、縦でもいいのですが。

○鍵屋委員 私もここは凄く重要だと思います。その次に「南海トラフ」とか書いてありますけれど、これこそが大事な「定性的評価」で、「こういうことが実際は起こる」ということを、大事なものにページをたくさん割いて、たいしたことがない話はちょっとだけのページにするなど、メリハリを効かせることが絶対大事だと思います。10ページ、11ページは凄く良くできていて、この見開きは「東京くらし防災」にあってもいいかなというふうに、思います。最初も「東京くらし防災」のほうは同じですよ。これは、先ほど、「災害ではあのようなことが起こる、このようなことが起こると」言いましたが、この見開きははとでもよくできています。文字が多いのでどうするかという点ではありますが、採用したくなる素晴らしいレベルの「定性的評価」だと私も思っていました。

○富川委員 先ほどおっしゃっていた、「発災時に必携」ということをもし謳うのであれば、最初のほうにこの見開きがあると、「これから何が起きるか」ということが分かります。「断水したら大変だな」と思った方がトイレのページを開けたりするので、「こういう時系列の見せ方がやはり凄く分かりやすいだろうな」というのがあるので、この見開きについて工夫はしていただきたいなと思います。

○中林委員長 なるべく字を大きくして、項目型で簡単にこの見開きのページに入れていただいて、「詳しくはこちら」と入れてはどうでしょうか。例えば「帰宅困難者はどのような状況に巻き込まれる」などは、モデル的に「東京くらし防災」のほうにありましたが、むしろ「東京防災」のほうにはしっかりと載せていただいて、東京全体、「タワーマンションではこうになってしまう」、「ライフラインが切れて、エレベーターが止まると、40階、50階に住んでいる人は大変です」というようなことをやはり知ってもらいます。「東京防災」のほうは、しっかりと載せてもらう方がいいかなと思います。

ほかにご意見があれば、お願いします。

○富川委員 「東京防災」に関しては、構成はもうこれしかない、こうだろうなというふうに思います。

○中林委員長 後は、「東京くらし防災」と「東京防災」の「ダブリ感をどうするか」という点があります。なるべく「東京くらし防災」はイラスト中心でわかりやすくし、その解説版的な「東京防災」は、文字は多くてもいいかなと思います。

そのうえで、読んでもらうためには、やはりせめてできあがりでは、「字の大きさは読みやすい大きさにするよう」ぜひお願いしたいと思います。字が小さすぎるようにはせず、分量ではなく、文字の大きさを削っていただいて、ページに収まるように工夫していただきたいと思います。

ほかにご意見はありますか。「東京くらし防災」の構成について、今議論もあって、原案に対して「流れを考えたほうがいいのではないか」という意見がありますが、本を作るプロセスと、その構成の修正について中島委員からご意見を伺えればと思いますが、いかがでしょう。

○中島委員 お伝えしたとおり、「東京くらし防災」の「第2章と第1章の時系列の流れ」ですとか、「東京くらし防災」と「東京防災」の「ダブリ感」についてですが、記載内容にダブリがあったとしても、例えば「大事なことなので何度も言います」のようなことはいいと思います。ただ、構成の修正については、ページ数の問題が絶対にあると思うので、もしどこかのページを詰められるのであれば入れてもいいと思いますし、第2章を第1章として最初に出すこともできると思います。

あとは、「防災ブックには地震だけでなく風水害のことも入っています」と教えていただきましたが、「それが入っている、ということ」を第1章の冒頭にしっかり入れてもらう」といった見せ方にしておくと、より読者に分かってもらえると思いました。

○中林委員長 やはり本は目次が大事です。全体構成を見るのに、最初に見ますよね。だから目次はしっかりと、「こういう構成としてこういう流れです」ということを示して、「ではこの順番で読んだほうがいいな」と思うか、「第1章を飛ばして第2章から読む」のか、その辺を考えるうえで凄く目次が大事かなと思っています。

デジタルと冊子の本の違いは何かというと、PDFは別にしても、デジタルは目次がない。だから、「全体像が分からないのに、いきなり各論から入る」という話になったので、ではぜひ、しっかりと目次でメッセージを示す構成にしていきたいと思います。

時間がもう来ていますが、ほかにかがででしょうか。

○富川委員 すみません、「東京くらし防災」のほうで、大きいところで一点だけ。ペットに関する部分で、「日頃のしつけが肝心」という話から入っていますが、そもそもペットを飼っている人口は凄く多いと思うので、ペットに関する記載を気にされている方が多いのではないかなと思います。そもそも、「避難所に行くのに、ペット同伴ができるのかどうか」という点や、「ペットがいる方は何が必携なのか」というところが抜けてしまっているの、「必ずキャリーに入れて、避難所では別々に生活をしなければいけないこと」など、基本的なところの記載が抜けているかなというふうに思います。こうした点に

ついて「東京防災」のほうでカバーされているかなと思ったらそのようなこともなかった
ので、この辺りは入れた方がいいかなと思います。

○鈴木委員 一点すみません。「東京防災」192 ページ、193 ページの「福祉避難所」の
ところですが、「特別な配慮を必要とする人を一時的に受け入れ、保護するために福祉避
難所が開設されます、場合によって直接避難される場合もあります」という記載は弱いと
思います。修正の方向性としては、「場合により、」ではなく、「自治体により、直接避
難指示される場合があります」という形かなと思います。現在の流れは、修正案のほうに
動いていると思うので、そちらの方向に文言をシフトしてほしいと思います。「福祉避難
所」の記載に「一時的」と入れるのは何か意味があるのでしょうか。ほかの避難所も全
部、「一時的」といえば「一時的」です。「福祉避難所」については、より「一時的」と
いうことを強調したいのか、その点は確かめてもらって言葉を選んでもらえるといいと思
います。

○池上副委員長 「避難所」とそれから「福祉避難所」と言うものについて、一応東京都
でも、いくつあるか記載しておられていますが、私はある新聞を読んで、「全国的に、要
配慮者は福祉避難所に直行したほうがいい」、「実際には指定避難場所に行った人は、数
日経ってから、移動が大変」とのことです。むしろ要配慮者の方々は、日ごろから、「福
祉避難所」というところがあって、「それがどこにあって、その施設の方と人間関係を
作っておいてください」ということも大事かと思えます。ただし、どちらの施設も、お客
様になってはいけません。一時場所を貸してくださるけど、全部付き添いの家族も一緒
に行って、そして教わって世話をしながら過ごすということですが、実際は「福祉避難
所」に指定されていても、かなり難しいというのが現状です。その辺りは鍵屋先生がお詳
しいと思います。

○鍵屋委員 あるべき論と現実の乖離が非常に大きいので、「では、こうしましょう」と
なかなか言えないですね。本来は「福祉避難所」に直接避難して、そこで生活ができるよ
うに、マニュアルや準備があり、訓練をしていて、備蓄が整っている。だから直接避難が
できる、という形がいいのですが、実際にはマニュアルもなく、訓練したこともなく、備
蓄物資もない。そこで「直接避難してください」となった場合、受け入れたときに対応す
るのは難しい。だから私は、この件に関しては真実が伴っていないので、黙って、「在宅
避難しましょう」と言うことになっているのではないかなと。

○鈴木委員 書き込むとすると、「自治体により、」という話だと思います。

○鍵屋委員 東京都で、二次避難所ではなく直接「福祉避難所」で避難者を受け入れると
正式に言っているのは江戸川区くらいではないでしょうか。

○鈴木委員 品川では今やっています。鍵屋先生、私が文京区で作ったもので妊産婦救護所
は「一時避難所」にしています。だから「福祉避難所」の中でも、それは逆にそうやって
案内しようと思って作っています。防災ブックの中で、QR コードなどで読むことができ
ばいいですが、周知しているところもしていないところもあるので、鍵屋先生がおっしゃ

るように色々難しいところありますが、「自治体のホームページを見てください」でもいいですし。

○鍵屋委員 「ホームページをご覧ください」というのはあるかと思います。

○池上副委員長 「お客様になってはいけない」という点についてはどうでしょうか。

○鈴木委員 その点に対しては、お客様ではなく「やりなさい」ということもあります。高齡で障害をお持ちで、一人で行って施設にやってもらわなければいけない人もいるので、一概に言えないと思います。だから、「避難所を借りてみんなでやりましょう」というレベルの「福祉避難所」での「要配慮者」もいれば、そうではなく、完全に守らなければいけない人もいるので、それは書けないと思います。逆にそれを「公助」としてやらなければいけないことです。池上委員のおっしゃる話は一般の避難所で書くお話かと思えます。

○池上副委員長 普段から考えておくべき話かと思えます。

ペットについても同じだと思います。区によって、ずいぶん差がありますから、「ペット同伴でどうぞ、ペット専用の教室をあてましょう」という世田谷区の例もありますけれども、そういうところばかりではありませんからね。やはり区によって差があるし、「福祉避難所」に関しては、私も区の防災課にかなり聞いたのですが、皆さん口をつぐんで。まだ受け入れができない状態のところが多いと思います。

○鈴木委員 鍵屋委員もですが、私は、今その状況を突破しようとしています。自分の研究分野のど真ん中で、それを作りこんでいかなければ守れないと思っています。

○池上副委員長 ぜひそれを進めていただいて、他に波及するようにしてください。

○中林委員長 避難対策検討会議などで取材にありますが、かくのごとく避難に対しては議論がたくさんあることと、フェーズによって全く問題が違うので、冒頭で言いました、命を守る「緊急避難」、要は直接死を出さない「緊急避難」と、関連死を出さない「避難生活」のあり方。その2つをこんがらがらないで、ぜひ分けてしっかりと書いていただきたいと思います。死んでしまった人には、「避難生活」はないです。全員が生きて「避難生活」に移行した時にどうなるか。

現行の「東京防災」40 ページに「避難の流れ」というページがありますが、これは元々火災の時の避難の仕組みとして作ってきたもので、避難場所指定のマップに、大きく載せてあるシステムになっています。説明を載せていますが、「一時集合場所」というものは危険があつて、避難所に行かなければならないときに、若者が走っているのではなく、「お年寄りを支えて一緒に行く場所」ということで、「我先に逃げる場所ではない」ということを分かるようなイラストにしてももらわないといけません。そのための「一時集合場所」です。

原稿案の「東京防災」192 ページで「一時集合場所」というものが出ていまして、先ほど紹介したページと似て非なるものに見えますが、実は同じことを言っています。図の描き方が実は同じ本の中に2つでてきますが、しっかり説明を入れておかないといけませ

ん。先ほどのページについて現行の「東京防災」で言うと、下のほうにある火災の危険がなく、一時集合場所でも、「断水したし停電したし、避難所に行ってみましょう」、「その時にやはり高齢者の方などを助けて行きます、そのための一時集合場所です」という説明をしていただくことで、「うちには一時集合場所がない」というところも、「やはり一時集合場所はあったほうがいいのか」と考えてもらえるような話かなと思います。

避難については、私も気をつけてもらおうと思いますが、これは「緊急避難」を言っているのか、事態が収まった後、「避難生活」をどこでやったらいいか、という避難なのか、「厳密に分けて書かないといけない」ということが、今回非常に気になっています。今の書き方だと、一緒になってしまっていると思います。書き分けるとしたら、かっこ書きをつけて、「避難所避難」、「避難生活避難所」など書き分けるというやり方もあるかと思っています。

○池上副委員長 避難の絵ですが、中林委員長がおっしゃったように、やはり高齢者や車椅子の方を介助するような絵がいいですね。それはとても大事な視点です。

○中林委員長 一時集合場所から先に行くところで、今の視点で考えてほしいと思います。

○池上副委員長 その点について、どこかで表現していただきたいですね。わかってほしいと思います。

○中林委員長 すみません。もう時間過ぎてしまいましたが、ありがとうございました。構成を含めて事務局にお考えいただいて、とりあえずは、本日いただいたこの紙ベースで、細かいところを見て、意見を伝えていただく、ということによろしいでしょうか。

それでは、今後について事務局より説明をお願いしたいと思います。

○事務局 本日の報告事項と合わせてご説明させていただきます。表紙のデザインですが、前回の委員会でご意見いただきまして、2つの防災ブックを同時に配ることなどを踏まえて、現時点の案をお示ししています。今画面に映っているように、タイトル以上に、「STEP 1 行動から始めよう」、「STEP 2 知識を深めよう」というキャッチフレーズを大きく目立たせるようなイメージでいきたいと考えています。イラストについては、「東京くらし防災」では、「家族で日常的な防災活動やっているよう」なイラストにして、「東京防災」では、「街や地域をイメージできるよう」にしたいと思っています。

色については、前回の委員会の議論の中で、「暖色系がいいではないか」というご意見もありましたが、「東京くらし防災」は、「手に取ってもらう」ということで、赤系とし、真っ赤な赤というよりは、画面に表示されているような系統で考えています。「東京防災」は、やはり、どちらの防災ブックか分かるように、青系統のネイビー系統で考えています。また、表紙デザインについて正式に決まりましたらご報告させていただきます。

合わせて、今後のスケジュールです。冒頭ご説明させていただきましたが、すみません、お時間が無い中でご検討、ご議論いただいているなか、委員の皆様のご予定もかなり忙しいということを伺っていますので、次回第5回の委員会につきましては、7月末頃に

書面での開催とさせていただきたいと思います。この時には原稿ができているという前提で、ご承認いただきたいと思います。それまでのステップですが、先ほどご説明させて頂きましたとおり、できれば来週にはまた新しいものをお送りし、再来週 19 日頃までに原稿をご確認いただきたいと思っています。つきましては、本日の委員会で言い切れなかったご意見は、できましたら、本当に申し訳ありませんが、明日、明後日までにお送りいただければと思います。そういたしましたら、来週お送りする修正後の原稿への反映が間に合うかなと思いますので、補足のご意見などは、別途メールでも何でも結構なので、お送りいただければと思います。また、1 週間程度でご意見をいただければと思っています。

とりあえずは、本日の原稿案について、本日言い切れなかったご意見は今日明日、明後日でお送りいただき、来週改めまして、いただいたご意見を含めて、事務局から各部署に確認をしている部分もありますので、メールにて、新しくご意見などを反映させて原稿をお送りします。そちらの原稿に対してのご意見については、すみませんが、1 週間後程度でいただきたいというお願いです。

原稿案につきまして、黒字の書き込みと赤字の書き込みがありますが、黒字のものについては委員会前にお送りした原稿案に付しているもので、赤字のものについては、追加で各部署から修正が入ったものです。それらや本日いただいた意見に加え、明日明後日程度までにいただく意見を踏まえ、来週また新しい原稿案をお送りさせていただき、そちらの原稿案についても、また 1 週間程度でご意見を頂戴できればと思います。非常にタイトなスケジュールで申し訳ありません。

対面で、一堂に会する場合は、今回の委員会が最後となります。最後に、総合防災部長からご挨拶させていただければと思います。

○総合防災部長 本日も色々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。構成も含めて、委員の皆様から色々な意見いただき感じたこととして、やはり、防災ブックは、普段から読んでいただくのは当然ですが、発災した時に「まず手に取ってみる」という活用方法があると思います。では、発災時の対応がブックの奥に書かれていると、なかなか読者に分かりづらいということがあるので、冒頭部分で、「発生時にまず何をしたらいいか」、エッセンスのようなものは、やはりあったほうがいいのかという気はしています。当然、更に細かい内容については、ブックの奥のほうを見てもらえばいいと思います。やはり、私自身も、何か災害が起こった時、防災ブックを手に取ってみて、まず目次を見て、必要な個所を探すような精神状態にはないと思います。そうすると、やはり冒頭のほうに、とりあえず最低限知っていないといけないことが書いてあったほうが、この防災ブックを都民に使ってもらえるのかなという印象がありますので、この点について事務局でも検討させていただきたいと思います。

これまで 4 回委員会を開催いたしました。様々なご議論いただきまして、どうもありがとうございます。

非常にタイトな日程で本当に申し訳ありませんが、今年度リニューアルといことで、急ピッチで進めていますので、よろしくお願ひします。やはり、災害がいつ起きるかわからないという状況の中で、都民一人ひとりに備えてもらうということが一番大事だと思っています。その一方で、私も、東日本大震災時に大変な思いをしましたが、当時は本当に防災意識というものは今よりもありませんでした。その後、皆さんの防災意識というものは、報道など色々なところで言われているので非常に高かったのですが、やはり10年以上経過してきて、段々と防災意識が薄れているのではないかとこのところは随所にあります。そういったところで、昨年度、東京都としましても、中林先生に非常にご協力いただきまして、定性シナリオを作成し、被害想定を見直しまして、その後「地域防災計画」も改訂しました。

今年度は、防災対策を一人ひとりに浸透させる年と思っています。ちょうど、今年は関東大震災100年という節目の年に当たっており、またとない機会ということで、「東京くらし防災」と「東京防災」のリニューアルは、防災対策を浸透させていく絶好のツールとしたいと思っています。

リニューアルは1つのツールであって、実際の防災対策はこれだけでは勿論無く、色々な要素を入れていかなければならないと思っていますが、やはり我々行政の立場では、どうしても行政的な見方になることは否めません。様々な角度からご意見をいただき、防災ブックに反映していくことは非常に大事だと思っています。皆さんに委員として色々なご意見をいただいたところですが、もっと広い範囲で防災対策全般に色々なご意見をいただければと思っていますので、本当にお忙しい中原稿案を全部通読いただいて、また、ご意見いただいて、なかなか全てのご意見を反映できないということもありますが、今後ともご指導いただければと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○中林委員長 次に直して送っていただく原稿案は、扉絵イラストや扉の文言や、例えば防災クイズを入れるとして、そのクイズの内容などもフィックスした形になりますでしょうか。

○事務局 正直、イラストについてはまだフィックスできない状況ですが、文言についてはほぼフィックスしたいと思っています。現在、文字数については全体を減らすようにして、同時に各所管部署に文言の確認をしています。

修正後の原稿案を来週にお送りするタイミングですが、早ければ早いほど確認期間が長く取れる一方、早ければ早いほど原稿案の精度が低いものになってしまいますので、うまく見計らってお送りしたいと思っています。ある程度固まったものをお送りするとなると、送付が遅くなってしまいますので、そうすると確認期間が3日程度などになってしまいますので、もし可能でしたら2回程度に分けてお送りできればと思いますが、お送りの仕方は検討させていただきます。

○中林委員長 福祉系の話や水害系の話など、大分制度が変わっているものもありますので、従前の防災ブックをベースに手直しするだけではいけないところが結構あると思って

います。だから、確認する原稿案については精度上げていただいたほうがいいのですが、ちょこちょこ赤修正をするだけで済む程度ならいいけども、それであればやはり今の段階で結構具体的なことをお伝えしたほうがよさそうですね。

私の立場で、もう全員集まるのをやめて、皆さんからご意見いただいてというのは、まさに原稿に赤修正を入れる程度のイメージを持たれているのかもしれませんが、それは冒険だなと思っています。本当はもう1回、全員集まれないかもしれませんが、私たちの言葉も直接伝えられますので、対面で委員会を開催して、「およそこのような構成にします」とか、「これとこれはこういうふうに整理しました」といったことを共有したうえで、赤修正を入れていくのがいいと思います。それも含めて検討してください。

それでは、本日は以上になりますので、お忙しい中ありがとうございました。